

# ばらんす

第43号

編集発行

大田原市総合政策部  
政策推進課 市民協働係  
〒324-8641  
大田原市本町1丁目4番1号  
☎ 0287-23-8715  
FAX 0287-23-8748

輝

シリーズ

## 大田原市女性消防団奮闘中!



栃木県・大田原市総合防災訓練で「操法」を披露しました。(平成29年8月27日)

### 大田原市女性消防団の活動

班長 上邑 朝江さん



平成26年10月に一般団員7名と市役所職員4名で発足しました。現在一般8名職員13名の総勢21名です、年齢層も19歳から62歳まで幅広く三世代の家族が活動しているようです。

設立直後に「全国女性消防操法大会」に栃木県代表として出場することを告げられ、操法訓練が始まり、今年9月30日に秋田県で大会に参加します。

子育て、職場との関係、家族の事、様々な心配事を抱えながら現在、週3回の訓練をこなしていますが、主婦が夕方7時から2時間の訓練に参加することは中々家族の理解を得ることができません。小学生の子を一人で留守番させている団員や訓練場に同行し疲れ果て眠る子を抱きかかえて帰る団員の姿を見ると、「この葛藤をいつか家族に理解してもらえたら…」と願わずにはいられません。

その他の活動として昨年10月より1度の市内巡回を行っています。「操法全国大会」が終わりましたら、火災防災啓発、広報活動に力を入れ、女性消防団の存在を大田原市の方々に知っていただくよう努めたいと思います。21名の活躍をご期待ください。



川上健次・聖子夫妻

## 地域のヒカリ、福祉のヒカリ 社会福祉法人エルム福祉会

楡の木(エルム)は茂る

社会福祉法人エルム福祉会は、故楡井一俊先生により財団法人エルム会として地域に誕生した。現在は統括施設長川上健次・聖子夫妻を中心に運営活動している。今年で20周年を迎え、10月9日にヒカリノカフェ蜂巣小珈琲店において感謝祭が開催された。

施設として、エルムの園・セルプみなと・ヒカリノカフェ・グループホーム待降寮(第1〜8)・認知症高齢者グループホーム・障がい児(者)施設・障がい児(者)相談支援センターなど年々広がっている。利用者は子どもから老人まで約300人。その方々を支える職員は150人となっている。

### 地域のヒカリ、福祉のヒカリ

夫妻のそして会の願いは、福祉で明るい未来を創造すること。「地域のヒカリとなり福祉のヒカリとなる」。誰もが地域の一員として安心して暮らし、生きがいを持って活動できるユニバーサル社会を築くことを目指しているそうだ。どの施設をとっても地域のヒカリとなっていると思う。

### 障がいの「働く」場

なかでもヒカリノカフェ蜂巣小珈琲店は、今、地域でヒカっている。廃校になった蜂巣小学校の利活用を市が呼びかけ、手を挙げたのがエルム福祉会。発案は川上統括施設長、妻の聖子さんに相談し応じたそうだ。同じ路を行くお二人は何事も話し合って進むとのこと。ヒカリノカフェ蜂巣小珈琲店は聖子さんが施設長となった。障がいを持った人の就労の機会が生産活動の訓練提供の場となっている。また、廃校で淋しい地域の活性化につながっている。

蜂巣を選んだ夫妻の共通の思いは、大田原を愛することだそうだ。二人のお子さんにも、地域で、家庭で日々生活する中で伝えたい。  
.....  
男女共同参画は、自然な形での支え合い：それを実践している姿を見た。(栗原)



ヒカリノカフェ



エルムの園 作業風景

# とちぎ 県民のつどい

日程：平成29年6月24日

参加者：360人  
うち大田原市から15名

場所：パーティとちぎ 男女共同参画センター

## 「文化を変える」ということ

### セクハラ、パワハラ、モラハラ、マタハラ、パタハラ

午前は3団体の団体発表、朗読劇、日本女性会議33回の歩み、先進国(ドイツ、ノルウエー、デンマーク)と日本の比較分析の発表でとても興味深かった。特に朗読劇ではセクハラ、パワハラ、モラハラ、マタハラ、パタハラ、いろんなハラメントの意味が理解でき、それぞれを客観的に考えることができた。

### 女性が当たり前前に活躍できる そんな時代が来ると信じていた

午後は、「文化を変える、ということ」と題してジャーナリストの江川紹子さんによる講演が行われた。現在の社会問題の導入から入り、戦後30年かかった男女雇用機会均等法が1985年5月に成立したとき法案制定の中核となった赤松良子さんはその法案を「みにくいあひるの子」と表現するほど理想の姿とのギャップがあったが、法律が人を変える。そしてそれは文化を変えると言われた。例えば“文化として育った電車の運転手”すべて男性だったが、今は女性が進出している。

また“戦後の日本は役所が文書を焼くところから始まった”と指摘、赤紙を配った記録を焼いたこと、さらに村木厚子事件や現在の森友学園問題、加計学園問題に触れ、法律だけではだめ、録画、録音など記録を残すことが必要、国民が最終的に判断し意見を言えることが民主主義であり、それが文化を変えるということであると締めくくられた。(藤沼)

## 震災から6年!被災地へ

### 大田原市女性団体連絡協議会



小野駅前応急仮設住宅の主婦らが手縫いで作っている「おのくん」。東日本大震災からの復興への願いが込められている。

- ・復興の様子を目の当たりにでき、次世代のため女性のために私たちに何ができるのか考えていくために有意義な研修だった。
- ・被災地に対して、テレビや報道で理解していたつもりだったが、視察してみて現実がわかり、震災から6年経った今でも胸が熱くなった。
- ・現地の方々の生の声を聴くことは心に響くものがあり、今後の支援は大切だと感じた。

大田原市女性団体連絡協議会(10名)は、平成29年8月2日(水)~3日(木)、震災から6年後の東松島市、石巻方面を視察した。同団体は平成25年にも視察しており、毎年イベントのたびに募金を募り、「おのくん」の材料支援をおこなってきた。その後の復興の様子、今後の支援の在り方を考えるために、「小野駅前応急仮設住宅」「みらいサポート石巻」「石巻赤十字病院」を訪問し、石巻観光ボランティア協会の斉藤敏子会長にバスに同乗してもらい甚大な被害があった門脇地区を中心に視察した。

**家や物がなくなっても“命”が助かればどうにか  
かなりまず“お薬手帳”は大事です!**

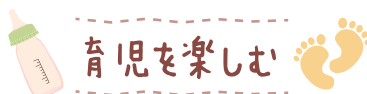


# お父さん ただいま育児休業中



佐藤 努さんと家族のみなさん

市役所職員の佐藤努さん（40歳）は、4月1日から育児休業中である。4歳のお子さんに加え、今年男の子と女の子の双子ちゃんが誕生して5人家族となった。結婚8年目によく恵まれた最初のお子さんのときは育休を取らなかったが、昨年秋、今度は双子を授かると分かった時点で育児休業取得を決意し上司に相談した。理解を得て快く休業取得ができた。子供が生まれる前から意識付けしないと、男性はイクメンにならない。



## 育児を楽しむ

子育てには楽しさと苦しさがあるが、夫は楽しいところだけ、妻は苦しい思い出だけではうまくいかない。佐藤家では奥様も産休・育休をとっておられ、夫婦でチームを組んで育児に取り組んでいる。

炊事・洗濯からおむつの交換まで、すべての家事と育児をこなしている佐藤さんだが、完全に母乳育児なので、奥様が所用で外出されたときにぐずられると、あやすのが大変だと言う。

「男性が育児参加すると、女性の負担が減ります。子育ては大変なことですが、しかし、良い思い出・記憶となり、私にとって大きな喜びとなっています。」と佐藤さんは嬉しそうにおっしゃっていました。

## なかなか進まない男性の育児休業取得

市役所職員で長期休業取得者は、佐藤さんで2人目（休業取得第一号は平成21年4月）。昨年度、市役所職員の育児休業取得者は10名だが、すべて女性であり男性の取得者はいない。中小企業では難しそうだが、市役所職員でも取得率が低いのは何故か。一般に育児休業を取得する男女に権利はあるのに、男性が「特に長期の育休」取得を妨げる2つ要因があるようだ。

1つは、「仕事は自分でないと無理」という意識。それを解決する代替要員をどう確保するかへの支援が必要である。事前に上司とよく相談すれば解決できるケースがある。

さらに大きな要因はお金・経済的なもの。育児休業中は「無給扱い」で、雇用保険から給付金を得るのが一般的で、収入が減る育休取得率の引き上げには「有給育休」によって収入減の不安を抑えるなど、男性の育休取得を促すインセンティブ（動機づけ・誘因）が必要だろう。（岩元）



## ばらんす掲示板

### 平成29年度大田原市男女共同参画推進事業者表彰

市では、積極的に男女共同参画推進に取り組んでいる事業者を募集し、表彰いたします。

**募集期間** 平成29年11月1日（水）～ 30日（木）

※対象や応募方法等の詳細については、広報11月号に掲載しております。

### 市民力アップ講演会

**期日** 平成30年1月27日（土）

**会場** 那須野が原ハーモニーホール

**内容** ① 大田原市男女共同参画推進事業者表彰式

② 市民力アップ講演会

講師/女子レスリング五輪メダリスト 吉田 沙保里 女子レスリング監督 栄 和人  
テーマ/未定 ※詳細については、広報12月号に掲載を予定しております。

お問い合わせ先：政策推進課市民協働係 ☎23-8715

## 編集後記

バランスのとれた社会を目指し、男女共同参画広報紙「ばらんす」は平成8年創刊し第43号を数える。

今夏の異常気象高温多雨は、自然のバランスの崩れを感じる。持続可能な地球であるため温暖化防止を念頭に日々の生活の中で努力したい。地球のバランスを保つために…（栗原）

編集委員（五十音順）

荒牧 孝道 岩元 利孝  
栗原 敏子 藤沼 久子